

道具学会 「秋の道具学レクチャー2025」

2025年11月13日（水）



申込公式サイト Peatix

身体性と 感性の拡張

パーソナルな道具たちの未来をかたる

陸上移動の乗り物には「車輪」は必須要件です。鉄道に代表される大量移動は「多輪」、自動車は「四輪」という安定の構造からなります。対し「二輪」の乗り物は不安定かつ制御が難しい。乗り手の身体性や運転感覚とマシンがひとつになって移動するという特殊な移動具といえます。この移動の世界を追い求めてきた専門家たちから、バイクに代表される「パーソナルな道具たち」の本質と魅力、そしてその未来についてお話をうかがいます。はたしてヒトとマシンは、ひとつになれるのか・・・みなさんと一緒に秋の道具学を楽しみましょう。

ヒトとマシンは
一つになれるか



E-Ride Base 公式サイトより

開催日：2025年11月13日（水）14:00開演～

会場：ヤマハ発動機「リジェラボ」 共創スペース／横浜みなとみらい

アクセス：<https://maps.app.goo.gl/nvbGkpRN76sLg1ys8>

1部 14:00～●道具学レクチャー：講演＋パネルディスカッション（9F リジェラボ）

2部 16:30～●見学会：「イーライドベース E-Ride Base」体験会（1F ショールーム）

3部 17:30～●交流会：リジェラボにて軽い軽食で懇親会（9F リジェラボ）

ヤマハ発動機の新しい拠点を見学しよう

リジェラボ：<https://www.yamaha-motor.co.jp/regenerative-lab/>

イーライドベース：<https://global.yamaha-motor.com/jp/showroom/yeb/>

横浜シンフォステージ：<https://www.yokohama-symphostage.com/about>



リジェラボ 公式サイトより

道具学会 「秋の道具学レクチャー2025」

2025年11月13日 (水)

身体性と感性の拡張

ヒトとマシンは
一つになれるか

パーソナルな道具たちの未来をかたる



岩井 隆哲

いわい たかのり
ヤマハ発動機
クリエイティブ本部
プロダクトデザイン部 部長

響き合い、呼び覚まされ、駆り立てられる ----- 感性の循環と連鎖

道具は人間の身体機能を拡張するだけでなく、感性を拡張し、私たちの行動と思考の在り方さえ変えていきます。今回は腕時計とモーターサイクルを通して、人と道具が交わることで生まれる「響き合い、呼び覚まされ、駆り立てられる」という感性の循環を見つめ直します。腕時計は身体になじみ共鳴して記憶を呼び覚ます、モーターサイクルは人機一体感によって心震わせ新たな挑戦を駆り立てる。その先の経験が次の共鳴を生み、循環へと繋がっていくのです。この、道具と人との関係性から生まれる感性の循環と連鎖を解き明かしてみたいと思います。

筑波大学芸術専門学群卒業。シチズン時計にて腕時計デザイナーとして経験を積み、スマートフォン業界を経て2013年に渡米。グローバルブランドの腕時計デザインを指揮し2022年にヤマハ発動機入社。スクーターや舟艇、自転車やゴルフカーなど多岐に渡る製品のデザインマネジメントを経て2025年より現職。



麦倉 毅美

むぎくら たかよし
GKダイナミックス
プロダクト動態デザイン部
シニアディレクター

理性と感性の道具 ----- そのすがた

知性と理性によって本質的な真理に向かいながらも感性を刺激させられる道具は、自分自身の精神的可能性をも拡張してくれそうな気がします。便利さという点では加速度的に進化してきた現在、人の心を進化させられる道具がもっと増えると良いのではないのでしょうか。モーターサイクルも感性増幅機といった可能性を持つ機械の一つとして、作り手の試行錯誤がありました。その思想を解説しながら、他の道具たちのすがたを深堀りしたいと思います。

東京藝術大学大学院美術研究科修了。金工技法を探究。1994年に株式会社GK ダイナミックスへ入社。2006年にGK Design international Inc.に出向。L.A.オフィスにて北米向けのオフロードヴィークルからスポーツボートなどをデザイン。2012年に帰国しGK ダイナミックスでモーターサイクル含め様々なプロジェクトに参加。

ショートプレゼンテーション



渡邊 祐也 (わたなべ ゆうや)

ヤマハ発動機 クリエイティブ本部 プロダクトデザイン部 RMSグループリーダー

安倍 涼 (あべりょう)

GKダイナミックス プロダクト動態デザイン部. デザイナー

モデレーター

山田 晃三

やまだ こうぞう

道具学会理事。研究委員会委員長。月影デザインコンサルティング代表。

1979年GKインダストリアルデザイン研究所入所。2012年GKデザイン機構代表取締役。21年より現職。日本デザイン振興会（Gマーク）フェロー。